

平成 25 年 5 月 22 日

南の風 37

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

36号で触れました『コーチング』について続けて書きます。

プロ野球の選手として、また監督として素晴らしい実績を残した、落合博満氏もコーチングの基本的な考え方として、次のように言っています。「コーチングとは、経験や実績を備えた指導者が、いかに選手を教育するか、という一方通行的なものではない。愛情を持って選手を育てようとする指導者と、必死に学んで成長しようとする意欲に満ちた選手とのハーモニーである。選手の『うまくなりたい』という向上心を喚起し、美しいハーモニーを奏でていくためには、まずその選手を十分に観察してやるのが大切なのである。」（『コーチング』ダイヤモンド社）

コーチングとは、指導者の一方通行的なものではなく、選手とのハーモニーであるということは大変示唆に富んでいると思いました。そして、まず十分に選手を「**観察**」することが大切である、ということにも強い共感を持ちました。落合氏は現役を退いて何年目かに、あるプロのチームの臨時コーチをした時に、選手に進んで指導することは一切しなかったと言います。ずっと観察を続けたと言います。そして選手の方から聞きに来た時に、初めて指導・支援したと言います。

話をミニバスとリンクさせます。プロ野球のコーチと、我々ミニバスケットボールのコーチとでは、対象となる選手の年齢や経験はまるっきり違います。違いすぎます。コーチングを同じようにはできないことは百も承知です。選手はバスケットボールと初めて向き合うわけです。こちらが指導しないと始まらないことが多いです。選手は何をどうしていいかわからないことがたくさんあります。また、何をどうコーチに聞いたらいいのかもわからないでしょう。ですから最初は、一方通行的な指導になることが多いと思います。

しかし、我々ミニバスのコーチが一番大切にしたいことは、主体は選手（子どもたち）だということです。何処に困り感があるのかをよく『**観察**』し、選手（子どもたち）の成長と共に、選手の気持ちに寄り添って指導・支援しなくてはいけないと思います。ワンウェイだったものをツーウェイにすることが、落合氏のいうハーモニーを生み出すことになるのではないのでしょうか。

さて、横浜市春季大会の南部予選最終日が5月18日（土）に磯子スポーツセンターで行われました。結果は下記の通りです。

＜男子＞	優勝	六ッ川	＜女子＞	優勝	永田台
	準優勝	桜岡		準優勝	サンライズ
	3位	永田台		3位	磯子
	4位	別所		4位	洋光台

以上です。優勝したチームの皆さんおめでとうございます。男女共、上位3チームが市大会に出場します。市大会での活躍をお祈り致します。

次号では、コーチングⅢを書いて見ます。